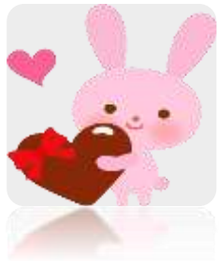
志布志市立原田小学校　令和６年２月号

ひまわり図書館だより



春の足音きこえていますか。

２月は寒さがもっともきびしい月とされていますが，暦のうえでは立春（２月４日）をすぎ，校庭の草木は春に向かって準備をしているようです。１月は「行く」２月は「逃げる」３月は「去る」というように毎日が早く過ぎていきます。３学期の本の貸し出し日数も少なくなりました。たくさんの本の中から，楽しい本や心に残る一冊に出会えるといいですね。

★節分（２月３日）

２月３日は「節分」です。「節分」とは季節の分かれ目という意味で，立春・立夏・立秋・立冬の前の日をいいましたが,今ではとくに立春の前の日をいいます。邪気を払い，福を呼び込もうと豆をまき，イワシの頭を柊にさして戸口に置き，悪鬼の侵入を防ぐ風習もあります。

節分に「恵方巻」を食べると縁起がよいとされ，その年の恵方に向かって願い事をしながら無言で食べるとよいそうです。丸かぶりが基本で包丁などで切ってしまうと縁が切れてしまうといわれています。今年の恵方は東北東だそうです。

★建国記念の日（２月１１日）

「建国をしのび，国を愛する心を養う。」

もともとは「紀元節」という祭日でした。日本書紀によれば，「紀元節」というのは初代天皇の神武天皇が即位された日とされています。つまり「日本の誕生日」ということです。

★針供養（２月８日）

折れたり，曲がったり，錆びたりすることで使えなくなった縫い針を神社やお寺に納め，針を供養し，裁縫の上達を祈る行事です。これまで硬い生地に何度も糸を通してきた針に，最後は柔らかいところで休んで成仏してほしいというねぎらいの意味を込め，豆腐やこんにゃくのような柔らかいものに針を刺すそうです。

2月のえほん　「ほしになった　りゅうのきば」　君島久子　＊再話

今年は辰年です。それにちなんで龍の絵本を紹介します。

龍のけんかで天が裂けて，村は雨や日照り、寒さに困りはてます。村のために若者サンは，天の裂け目をつくろう方法をライロン山へ探しに出かけます。夜空の星の天の川にまつわる壮大な中国民話です。長いお話ですが，読んだあとは勇気をもらえるような絵本です。

＊再話とは？昔話・伝説・神話・文学作品などを，現代的な感覚や用語で文学的に表現したもの。または，そのように書き直す作業。再話は,原典に忠実に翻訳するのではなく,物語としてわかりやすくすることが目的である。(インターネットより)

★2024年は,うるう年（２月29日）が存在する日

うるう年は,地球の周りを太陽が一周する周期と暦のズレを補正するために,原則4年に１度設定されます。ただし，４で割り切れる年でもうるう年でない場合もあります。

☆次回，２月がんがらちゃん来校日は９日（金）です。

図書の貸し出しは一人１０冊まで。図書館（本館・分館）でも返却OK。返却準備をしてください。